

第6回東京オリンピック・パラリンピック プロジェクト推進本部会議

1 日 時 平成28年3月28日（月） 9：30～10：20

2 場 所 第一会議室

3 出席者

市長、鈴木副市長、神谷副市長、病院事業管理者、教育長、総務局長、総合政策局長、
財政局長、市民局長、保健福祉局長、こども未来局長、環境局長、経済農政局長、
都市局長、建設局長、中央区長〈代理：中央区副区長〉、花見川区長、稲毛区長、若
葉区長、緑区長、美浜区長、消防局長、会計管理者（欠席）、議会事務局長

4 議題

(1) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉市行動計画【改定版】の策定について

5 議事の概要

(1) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた千葉市行動計画【改定版】の策定について

- ・議題について事務局より説明した。
- ・事務局から資料1について説明し協議した結果、一部内容を追加・修正することで決定した。

6 会議経過

司 会： これより第6回東京オリンピック・パラリンピック プロジェクト推進本部会議を開催します。

最初に熊谷市長からお話をいただきます。

市 長： 千葉市が東京オリンピック・パラリンピックの競技会場都市となり、現時点では、オリンピック・パラリンピックの両方が開催されるのは千葉市だけであり、オリンピックが開催されるというような受け身的なことではなく、オリンピックを開催するという主体的な気持ちでもって、2020年に向けてそれぞれの部署で何ができるのかを考えていただきたい。

オリンピック・パラリンピックは都市の成熟度が試される機会である。本市は、成田空港に一番近い政令指定都市として国際交流を意識して取り組んできているが、2020年というターゲットに向けて、まだまだしなければならないことがたく

さんあるので、それぞれの部署が 2020 年以降を見据えた千葉市のまちづくりに取り組んでもらいたい。

4 年はあっという間なので、それぞれの部署で意識を持って取り組んでいただきたい。

また、ロンドンも含めて、他都市における状況について、十分にそれぞれの部署で研究のうえ理解をしていただきたい。

司 会： それでは、今後の進行は本部長である、熊谷市長をお願いします。

市 長： では、議題 1 について事務局より説明願います。

事務局：【議題について、資料 1 に基づき事務局から説明。】

<質問・意見等>

経済農政局長： 45 ページの千葉市 2020 おもてなし推進協議会（仮称）の設置の検討だが、2016 年の 1 年かけて検討では遅すぎるのではないか。準備委員会等を早々に立上げて検討に入るべきである。

また、おもてなしのターゲットが明確ではない。おもてなしの対象は外国人だけではなく、国内の人々についてもターゲットになりうるので、ターゲットを明確にし、整理した方がよい。

障害者の雇用は障害者アスリートを対象とするのか、障害者全体を対象とするのか。
事務局：千葉市 2020 おもてなし推進協議会(仮称)の検討に、2020 年までの期間で 1 年間はかけられないと考える。一方本市も参加している千葉県の官民体制もあるので、千葉市独自の部分をどういう形で組み立てていくか整理をし、その際に明確でないターゲットについても整理していきたい。

障害者雇用については、アスリートだけでなく広く障害者雇用について関係団体等の協力の働きかけはしていきたいと考えている。

神谷副市長：指標に新たに就労した障害のある人の数とあるが、34 ページの活躍の場・雇用の創出のメニューが少ない。

市 長：取組について保健福祉局、経済農政局と連携して一緒に考えること。

それから、ボランティアは 2020 年のためにやるという考え方は捨ててほしい。2020 年も含めて千葉市は残さなくてはならない。本市は、MICE も力を入れており、国際的な人たちに対するおもてなし体制は千葉市自身がやらなくてはならない。県や組織委員会等と関係なく、2020 年以降、どういう組織として残したいのか意識を持ったうえでやらないと 2020 年で終わってしまう。

2020 年以降どういう体制を残したいのか、総合政策局で関係部局と調整するように。

都市局長：46 ページの訪れる人の利便性の向上について、2020 年までの限られた時間なの

で、京葉線の駅から会場へのバリアフリー等がメインになるかと思うが、それ以外の交通結節点、乗継の拠点、接続バスで訪れる人もいるので、実際にどこでバリアフリー化の推進、多言語対応やっていくのか、そこに都市アイデンティティに関係する場所、観光ルートを考慮しなくてはならない。

また、それに合わせた案内図や美観等について、どういう風に考えているか教えてもらいたい。

事務局：バリアフリーについては、組織委員会のアクセシビリティガイドラインに求められる部分への対応がある。

多言語対応も含めて会場周辺の幕張だけでなくどういう形での拡げ方があるのか整理しなくてはならない。

都市局長：多言語化について、無理に4言語を案内板に記載すると逆に小さく見づらくなってしまうので、しっかり日英で対応したほうがよい

市長：大事な考え方。ピクトグラムなどユニバーサルデザインでやっていけばいい。見づらくなっては意味がない。

市民局長：29ページ書き出しの部分について、パラリンピックだと障害者に特化したものになるが、実際には、性的少数者はパラリンピックだけの話ではなく、オリンピックを含むので、オリンピック・パラリンピック両大会を記載してもらいたい。

あわせて、イメージ図もオリンピックも成功することにして修正してもらいたい。

また具体の施策として、LGBTについて市民の関心も高まっているなかで、多様性理解のための講話を行うというようなある程度具体のLGBTの人たちへの理解促進の取組をここに掲載しなければいけないと考える。

事務局：29ページを修正の方向で調整する。

多様性理解の取組について市民局と協議させていただきたい。

市長：多様性の話になると結局パラリンピック、障害の有無につながる。

オリンピックそのものが五輪憲章でどういうことが謳われているのか組織で落とし込みができていない。

オリパラ開催を機に千葉市も世界レベルでのLGBTや多様性の認識を持つことが必要。女性そのものもまだまだ遅れている。市民局と一緒に具体的なメニューをいれこんでもらいたい。

宗教に関してもハラルだけではないことも意識しなくてはいけない。多文化理解について相当準備をしなくてはいけない。

多様性への理解を深めるのがオリンピック・パラリンピック教育では。

教育長：文化・習慣・国籍・言語など、これを機に子どもたちの感覚として身に付けることが学校教育の場でも重要である。

市長：2020年に向けて本当の意味でスポーツ文化を定着させなくてはならない。

スポーツ文化とはスポーツを通じた交流であって、日本のスポーツはいつも勝ち負けをメインにしか考えられない風土があり、世代で区切りたがる。

障害のあるなしでいっしょに競技するその前に障害の無い人自身が混在していない、

行政のスポーツイベント、スポーツ推進員の方が主催するイベントにおいて、世代交流を地域でちゃんとやってもらいたい。そういう意識を体育協会に十分認識してもらいたい。

日本はスポーツではなく、体育であり競技。スポーツとしてやることを徹底してもらいたい。

教育長：障害者スポーツの障害の程度に応じて参加できるクラス分けの感覚を、学校で教えていかないといけない。

障害者スポーツを観てもらおうことがすごく大事

花見川区長：外国からの来訪者に日本らしさを感じさせるものとして、花見川のサイクリングコースを使って、神社仏閣や歴史の日本らしさを感じさせる場所が花見川区にはある。自転車や徒歩で観光ができるし、また観光ボランティアもいるので、そういう視点も入れていってもらいたい。

市長：外国人には、ローカルなものでなければ満足してもらえないこともあるので、それぞれの区で地域資源を掘り起しというのもしっかりやっていただき、説明できる人もあわせて用意していくこと。

市長：出た意見を修正した上で、行動計画改定版を決定とする。

2020年に向けた取組を進めていくには、まず我々が率先しなければならない。ここにいる幹部職員は車椅子競技を観戦し、パラリンピック4種目を体験する。さらにそれぞれの組織において率先してやってもらいたい。

7 照会先

総合政策局総合政策部政策調整課オリンピック・パラリンピック推進室

TEL 043(245)5048